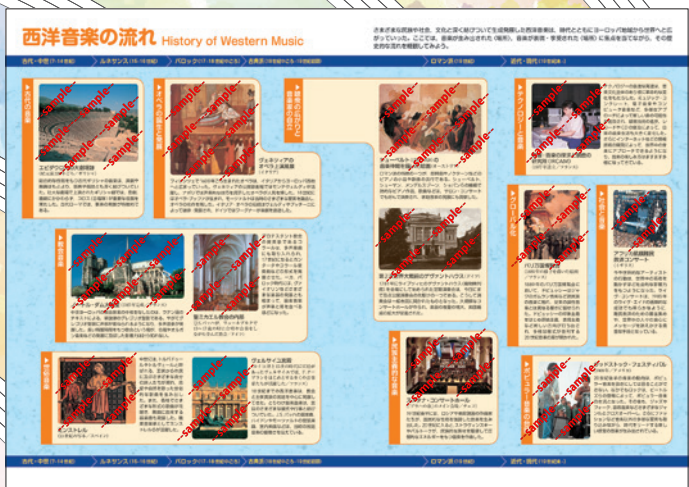


なぜ、学校で音楽を学ぶのか。

一人一人の個性と多様性の尊重が叫ばれる中、音楽科の「学ぶ意義」はより一層、明確になるよう求められています。様々な音楽と出会う、それは自分自身の感性をもってぶつかっていくことであり、何より違う感性をもつ他者と協働して音楽をつくり上げることで、新たな価値を見だし、生きる喜びを発見することへ繋がるでしょう。その喜びこそが、社会へと進む生徒の人生を支える糧ともなります。正解・不正解にとどまらない、それぞれに合った使い方で自分に生かせる、それが音楽之友社の「改訂版 高校生の音楽」シリーズです。

資料



西洋音楽の流れ
(改訂版 高校生の音楽2 p.2)



春への憧れ
(改訂版 高校生の音楽1 p.20)

歌唱

音響盤。感性の

鑑賞



歌舞伎「青砥稿花紅彩画」
(改訂版 高校生の音楽3 p.98)

器楽

創作



和楽器に親しむ 三味線
(改訂版 高校生の音楽1 p.138)



言葉からリズム＆メロディーをつくろう
(改訂版 高校生の音楽1 p.110)